

YAMATO Nature Circle



2025年6月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.77

— 絵と文 群馬直美 —

梅の教え《ウメ》

今は、お花見といえば桜だけど、その昔、遣唐使の頃には、
百花の長・植物文化の代表の座についていたのは、梅だったのだそうだ。
梅が薬木として中国から渡来したのは、奈良時代以前とも。
実や苗と一緒に、中国流の〈梅の花の観賞の仕方〉も、伝えられたそう。

『梅に四貴あり』

若きを貴しとせず 老いたるを貴しとす
肥えたるを貴しとせず 瘦せたるを貴しとす
開きたるを貴しとせず 含みたる(蕾)を貴しとす
繁きを貴しとせず 稀なるを貴しとす』

〈若い枝よりも老いた枝、肥えた枝よりも瘦せた枝、
開花よりも蕾(つぼみ)、たくさん花より少ない花が貴し〉とする、
梅見の仕方・重点を示した〈梅の四貴 老瘦蕾稀(ろうそうらいぎ)〉も、その一つ。
こうして万葉の知識人たちは、梅を教材とし、
日本の社会に存在しなかった〈みやび〉を学んだという——。
さて、この春、ヤマトビオトープ園で出会い、私が描いた梅は……。
緑色の若い枝もあれば、年老いた枝もあり、
肥えた枝もあれば、瘦せた枝もあり、開花した花もあれば、蕾もあり、
たくさん花もあれば、ガクとシベのみ残して消えた花もある。
老いも若きも、肥えも痩せも、開花も蕾も、繁きも稀も、
共存する〈梅の四貴〉ならぬ〈梅の八貴〉の枝だった。
〈老若・肥瘦・開蕾・繁稀(ろうにゃく・ひそう・かいらい・はんき)〉すべて貴い……
と言うかのように咲いていたヤマトビオトープ園の梅。

《表紙の絵》ウメの花×2.4

「老いも若きも、肥も瘦せも、開花も蕾も、
繁きも稀も、全部オッケー！」

・ヤマトビオトープ園にて 2025.3.11採集
(作品の完成日は2025年4月30日)

・紙(ファブリアーノエキストラホワイト極細目)/テンペラ・油絵の具
・size:335mm×245mm ©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の葉の実の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。

<https://www.wood.jp/konoha/>